

山梨県立青洲高等学校 7th 創立記念日



校名 明治期に私立図書館として、地域の学問拠点となった「青洲文庫」に由来します。また、「青」には青春を謳歌する若者のイメージを重ね、「洲」には三清流(富士川、笛吹川、芦川)に囲まれた地形の意味を込めています。3校それぞれの伝統を継承する青洲高校が、未来の峡南地域の学問の拠点となってほしいという願いも込められています。

創立7周年記念日に寄せて 青洲高校に関わるすべての皆様へ

10月4日、青洲高校は創立7周年を迎えます。

この節目の日を迎えることができますのも、生徒の皆さん、保護者の皆様、地域の皆様、そして教職員の皆様の御理解と御支援のおかげです。まずは心から感謝申し上げます。

青洲高校は令和2年4月に開校しました。伝統校と呼ばれる学校と比べれば、その歴史はまだ浅いかもかもしれません。しかし、この7年間に生徒たちが積み重ねてきた学びや挑戦、仲間との交流、地域との関わりは、確実に本校の歴史となり、伝統となりつつあります。

創立記念日を迎えるにあたり、私は生徒の皆さんに「母校とは何か」について考えてほしいと思います。皆さんは「母校」という言葉から何を思い浮かべるでしょうか。

私たちは卒業した学校を「母校」と呼びます。しかし、不思議な言葉です。なぜ「卒業校」や「出身校」ではなく、「母校」と呼ぶのでしょうか。

英語にもアルマ・マテル(Alma Mater)という言葉があります。これはラテン語で、「養い育てる母」「慈しみ育てる母」という意味です。日本語でも英語でも、学校は「母」に例えられています。

そこには一つの共通した考え方があります。

学校とは、知識を身に付けるだけの場所ではなく、人を育てる場所であるという考え方です。

授業を受けて知識や技能を学ぶことはもちろん大切です。しかし学校ではそれだけではありません。仲間と協力すること、人の話を聞くこと、自分の考えを伝えること、失敗から立ち上がること、困難に挑戦すること、相手を思いやること。私たちは日々の学校生活の中で、多くのことを学びながら人として成長していきます。

だからこそ学校は、卒業した後も特別な存在として心の中に残り続けるのです。

母校という言葉には、先生方とのつながりがあります。

在学中には気付かなかったとしても、卒業後に振り返ると、自分を励ましてくれた先生、時には厳しく指導してくれた先生の存在が思い出されます。そのような先生方は、やがて「恩師」として心に刻まれていきます。

また、母校という言葉には仲間とのつながりがあります。同じ教室で学び、文化祭や体育祭に取り組み、部活動で汗を流し、悩みや喜びを分かち合った友人たちは、生涯にわたるかけがえのない財産になります。

何年経っても「青洲高校の卒業生です」という一言で心の距離が縮まることもあるでしょう。

さらに、母校という言葉には地域とのつながりも含まれています。校舎から見える景色、通学路の風景、地域の皆様との交流活動、学校行事の思い出。それらはすべて青洲高校で過ごした時間と結び付き、人生を支える大切な記憶となっていきます。

本校の校名の由来である「青洲文庫」もまた、この地域が大切にしてきた学びの象徴です。

明治33年に完成した青洲文庫には、多くの書物が収められ、地域の知の拠点として大きな役割を果たしました。そこに流れていた「学びを大切にする精神」は、今も本校の教育の根底に受け継がれています。

創立記念日は、学校の誕生を祝う日であるとともに、自分たちの学校に流れる精神や伝統を見つめ直す日でもあります。伝統とは、ただ昔から続いているものではありません。

文芸評論家の小林秀雄は、「伝統は見つけたして、信じて初めて現れるものだ」と述べています。つまり、伝統とは一人一人の自覚と努力によって生き続けるものなのです。

青洲高校の伝統は、今まさに皆さんによって創られています。授業に真剣に向き合う姿。部活動に全力で取り組む姿。学校行事で仲間と力を合わせる姿。地域の皆様との交流を通じて学ぶ姿。その一つ一つが、やがて青洲高校の校風となり、後輩たちへ受け継がれる伝統となります。

生徒の皆さんは、まだ青洲高校を「母校」と呼ぶ立場にはありません。

しかし、いつの日か卒業し、それぞれの人生を歩み始めた時、この学校を振り返り、「青洲高校で学んで良かった」「青洲高校で出会った仲間や先生方がいたから今の自分がある」「青洲高校が私の原点だ」と誇りをもって語れるようになってほしいと思います。

そのためにも、今という時間を大切にしてください。

授業の一時間一時間を大切にすること。部活動に打ち込むこと。友人との何気ない会話を大切にすること。学校行事に全力で取り組むこと。

今は当たり前に見える日常こそが、将来皆さんの人生を支える宝物となり、青洲高校を「母校」と呼ぶ理由になっていくのです。

創立7周年という節目の日にあたり、これまで青洲高校を支えてくださったすべての方々に感謝するとともに、本校に関わる皆様と共に新たな歴史を築いていく決意を新たにしたいと思います。

青洲高校が、生徒一人一人にとって誇りある母校となることを願い、創立記念日のメッセージとします。

令和8年10月4日

山梨県立青洲高等学校長 小林 太郎

